須恵器

器台（２）第10トレンチ盛土層（Ⅱｅ）出土。脚部破片で、外面には突出度の低い凸帯を巡らし、その間に櫛描波状文を施している。

甕（３）第12トレンチ表土出土。胴部の破片と思われ、外面には平行叩き目文・内面には同心円文が認められる。

磁器

碗（４〜６）４は第９トレンチ盛土層（Ⅱｄ）出土。高台部は低く、底部は丸味をもち、胴部は垂直に近い状態で開き、口縁部に至る。外面には、釉罅が認められる。地色は白色を呈する。５は第10トレンチ盛土層(Ⅱｅ)出土。口縁部破片で、外面には横線・内面には縦縞の染付文様が施されているが、小片で詳細は不明。６は第12トレンチ盛土層(Ⅱｂ)出土。高台部から底部にかけての破片で染付文様が施されている。高台部外面では二本の横線を表わし、底部内面のものは不明瞭である。

皿（７〜11）７・９は第12トレンチ盛土層（Ⅱｂ）出土。二点とも高台部から底部にかけての破片で、内面に染付文様が施されているが、小片で詳細は不明。８は第141号坑内盛土層（Ⅱｂ）出土。高台部から底部にかけての破片で、内・外面に、釉罅が認められる。地色は白色を呈する。10は第139号坑内盛土層出土で、口縁部破片。11は第141号坑内盛土層（Ⅱｂ）出土で、口縁部から体部にかけての破片。二点とも彎曲して広がり、端部で水平に外方へ延びる。地色は白色を呈する。

瓦（12）第141号坑内盛土層（Ⅱｂ）出土。桟瓦の一部分で内・外面ともに縦の箆磨き痕が残存する。断面は弧状となっている。二次焼成を受けており、赤味がかった灰白色を呈する。

泥面子（13）第９トレンチ表土出土。赤色素焼の円形で、直径二・六センチ、厚さ〇・八センチを測る。表面には型押しによる扇の模様が描かれている。

この他、トレンチと掘削坑から次の出土品がある。

第17号坑内盛土層から須恵器片一点、第65号坑内表土層から陶器片・磁器片各一点、第77号坑内盛土層（Ⅱｄ）から原形不明の遺物一点、第６トレンチ盛土層（Ⅱｃ）から瓦片一点、第８トレンチ表土から陶器片一点、第10トレンチ盛土層（Ⅱｅ）から磁器片五点、赤色素焼の原形不明遺物一点、第123号坑盛土層（Ⅱｂ）から土師器片一点、第12トレンチ表土から陶器片・磁器片、盛土層（Ⅱｂ）から陶器片・磁器片・瓦片各一点。

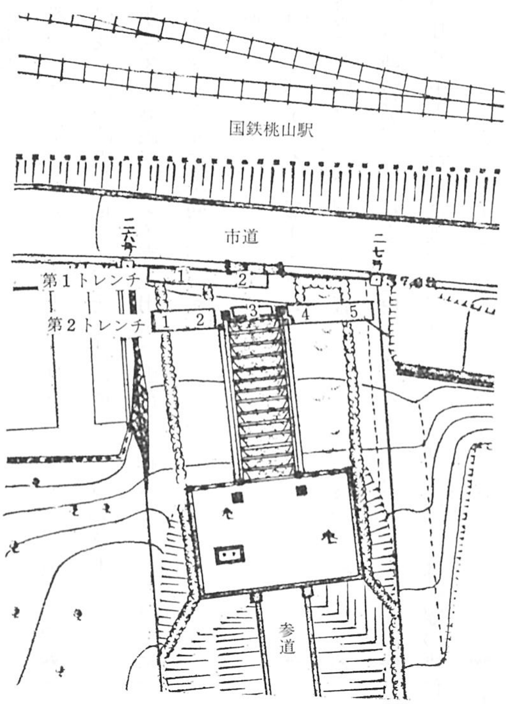
（佐藤利秀）

大光明寺陵駐車場取設工事区域の調査

大光明寺陵参道入口、市道に面した約三三平方メートルに、新しく駐車場を設置することになった。当該地は遺跡「伏見城跡」に含まれるので、事前に発掘調査を実施した。

光明天皇陵以下二陵一墓のある当陵墓地は、伏見城の外郭をなす武

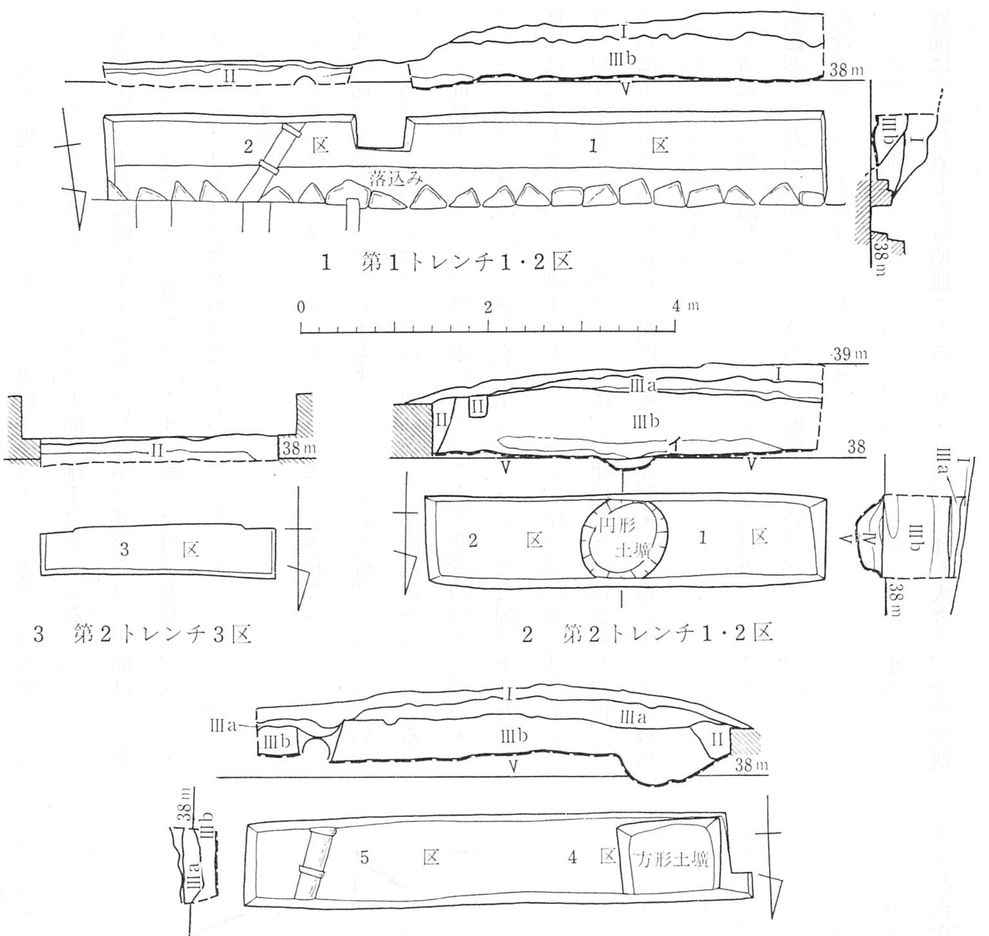
家屋敷の南の一画たる桃山町泰長老一五九番地にある。南は急に落ち込んで宇治川の沖積地に至る。東は細長い谷が入り、その向いは桃山町本多上野と呼ばれる台地である。北は国鉄奈良線桃山駅で、その線路の一部は盛土しているので、これを取り去って考えると、東の谷の一部は直角に西に折れて入りこむように見える。西は比高約三メートルづつの段三つを介して大和街道に至る。この泰長老の地は、東と南が現に大きく落ち込み、西・北も少なからず段差をもっていたようで、本来は方形の台地ではなかったかと推定される。京都市田中勘兵衛氏所蔵の伏見城古図にも、「泰長老」とあり、東側の谷には宇治川と連絡するらしい堀割が南北に走り、これに沿って西隣りに道路が通る。当陵の工事予定の参道入口は、本誌二九号に掲載した「伏見城図」の「月光院」「文珠院」と記された区画かその北の道路との間に相当し、他の一本（文禄四年）によれば、「板倉」「岩見ヤシキ」と見える区画に比定される。前者は、屋敷地はその所有者名を記し、斜面地は名を記さずに区画のみを表現する手法を用いている。工事予定地は、ちょうど斜面地であり、しかも道路際でもあるので、現地が旧形をとどめているならば、「月光院」「文珠院」とその北を東西に走る道路に挟まれたところと考えられる。また『慶長年成伏見図』と題する別の一本には、斜面地の表現はなく、道路と屋敷地とが区画されて表わされているなかに、「月光院」の北隣に記名のない方形の一区画がある。どの古図が正しく、工事予定地が誰の屋敷であったかは、詳らかでない。しかし、いくつかある伏見城古図の一本一本のうえでどの部分が工事予定地に当るかは、おおよそではあるが、容易に比定しうるのである。



第34図　大光明寺陵トレンチ位置図（1/500）

調査は、昭和五十五年一月十七日から二十二日までの六日間行なった。その結果、性格は不明であるが、二つの遺構が検出された。しかし、工事の掘削は、その遺構の切り込み面に達しないので、駐車場舗装の下に保存されることになり、予定通り工事を実施した。施工時にも監区職員が立ち会ったが、遺構・遺物について新たに加えるべきものは出土しなかった。

工事予定地に二本のトレンチを設けて発掘した（第34図）。道路際の



第35図　大光明寺陵トレンチ平面および断面図（1/80）

第1トレンチは幅〇・九メートル、長さ七・七メートル、駐車場の奥に当る階段登り口に設けた第2トレンチは、幅約一メートル、長さ一四・六メートルで、西から区画番号を付した。

標準的な層序は、次の通りである（第35図）。

Ⅰ層　表土。黒色腐植土。

Ⅱ層　当陵の施設として水道管・排水管・階段・間知石積みを設けるために掘込まれた掘り方の埋土。

Ⅲ層　新しい時期の盛土。上下二層に大別され、上のⅢa層はごく新しい。工事資材と思われる砂や砂利の層が含まれ、掘り方の埋土であるⅡ層を覆っている。下のⅢb層は、茶褐色土が主体で、厚く盛り上げられている。土師器・陶磁器を含む。第2トレンチ1・2区では、この層の最下部に、前記の施設の基礎の下に入っている円礫と同じものが一層認められる（第35図2に示すイ）。

Ⅳ層　第2トレンチ1・2区で検出された円形土壙、同4区で検出された方形土壙

の埋土。

Ｖ層　地山。堅くしまった砂礫層。円形土壙と方形土壙が穿たれている。その埋土とともにこの上面は削平されている。

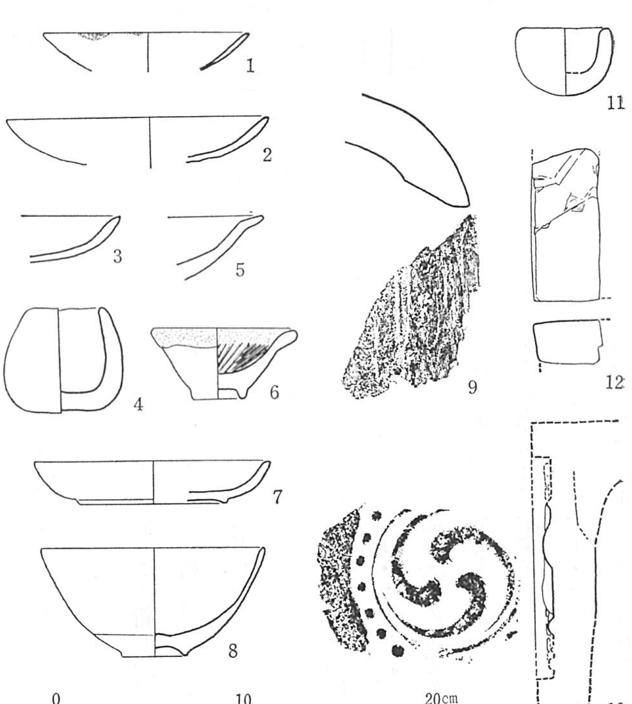
円形土壙　上部は既に削平されているが、残存部は、平面は楕円形で、径約〇・九×一・〇(推定)メートル。断面は盤状を呈し、深さ〇・三メートル。埋土は自然堆積状を示し、よくしまっている。遺物はない。性格不明。

方形土壙（図版四2）　これも上部を既に削平されている。トレンチの北外側の未掘部にのび、底床も未掘のため形状を確認しきってはいない。検出された残存壁はコ字形に直線的な三辺が直角に交わっているので、平面は方形になる可能性が強い。確認できる北壁の長さは、一・一メートル。壁はほぼ垂直に落ちる。深さ七〇センチまで掘り下げたが、底床には達しなかった。埋土はしまりがなく、中央部が低く窪むレンズ状の自然堆積を示す。茶褐色土の下に、炭化物を多量に含む茶褐色土、さらに下に茶褐色土を含む円礫層が続く。鉄釘・炭化物とともに磁器が出土している。性格不明。

調査による出土遺物は、七九片を数える。中近世と思われる土師器、陶磁器、燻瓦が主体で、このほかに炻器質の土管、ガラス片、坩堝、鉄釘などがある。火を受けたものが多い。

土師器（第36図1〜4）　皿の破片が多い。1は、口径が小さく、口縁部に煤が付着した灯明皿である。2・3は、口径が大きく、その受皿にふさわしい。両者とも口縁部は折返し風に肥厚し、横の方向の撫でが施こされる。胴部以下には、指押さえの痕跡を残す。肌色を呈し、繋（つなぎ）がほとんど混っていない精良な粘土を用いる。4は、手捏ね。精良な粘土を用いるが、焼成が良くない。

陶器（第36図5・7・8）　5は皿と思われ、口縁部が大きく外に開く。内外面に灰白色の釉を施す。同じく皿7は、胴下部以下に削りを加えて高台を造り出す。内外全面に灰色の釉を施す。8は、灰緑色の釉を



第36図　大光明寺陵出土遺物実測図（1/4　ただし4・6は1/2）

施す飯埦である。これらのほかに、火を受けた埦の底部などがある。

磁器（第36図6） 明るいコバルトを用いた染付が多いが、実測に耐えるものは少い。また明るい黄緑色の大型の鉢もある。6は、極く小さな擂鉢で、片口をもつ。

瓦（第36図9・10） 燻瓦が多く、鬼瓦片を含む。火を受けたものもある。9は布目のある筒瓦、10は三巴の瓦当である。

坩堝（第36図11） 坩堝の破片が三点出土した。いずれも火を受けて固く焼きしまっているが、海綿状の組織を示す。図上復元した11によれば、小型で半球形を呈する。

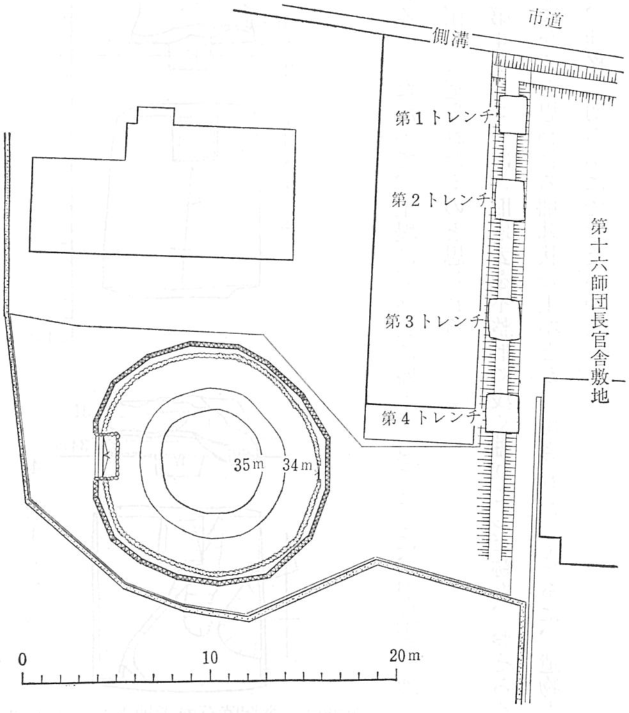
砥石（第36図12） 12は破片であるが、二面に平滑な研摩面が認められる。粘板岩。火を受けている。

（笠野　毅）

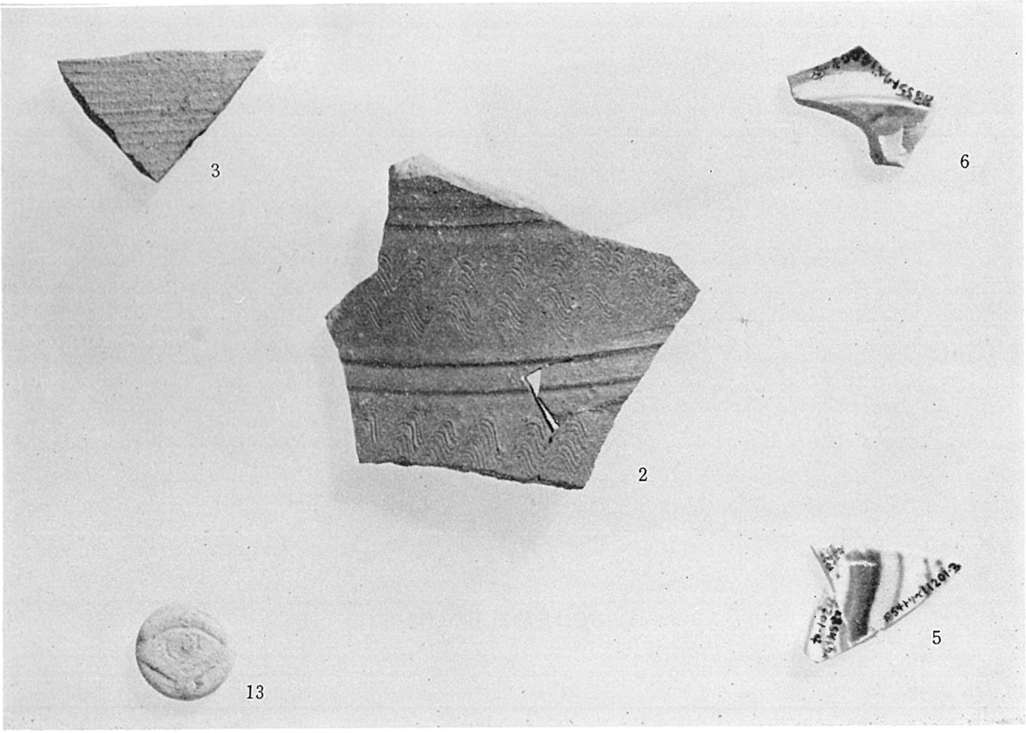
沓塚陵墓参考地通行路改修工事区域の調査

沓塚陵墓参考地は、大戦後に、進入路を失ったが、南北に伸びて市道に取り付く土堤敷が近畿財務局から管理換えになり、土堤を撤去し、参道として整備することとなった。『京都市遺跡地図』『同台帳』によると「深草廃寺」北西隅に近接し、ここの南方近くは「深草中学廃寺」とされる遺跡である。当該地は、その遺跡の範囲外であるが、念のため発掘調査した。なお参考地は戦前には、第十六師団の構内にあり、参道予定地の土堤の東にある、市道に面した区画は、旧師団長官舎敷地である。その南西の一画にある民家のあたりに厩舎があったといわれる。したがって、参道にしようとする土堤は、旧師団長官舎敷地の西を画した土堤と考えられる。ちなみに、市道に面した同敷地の北にも、この土堤の延長が認められ、その中程を切って小口に煉瓦を台形に積み上げた門口が残っている。

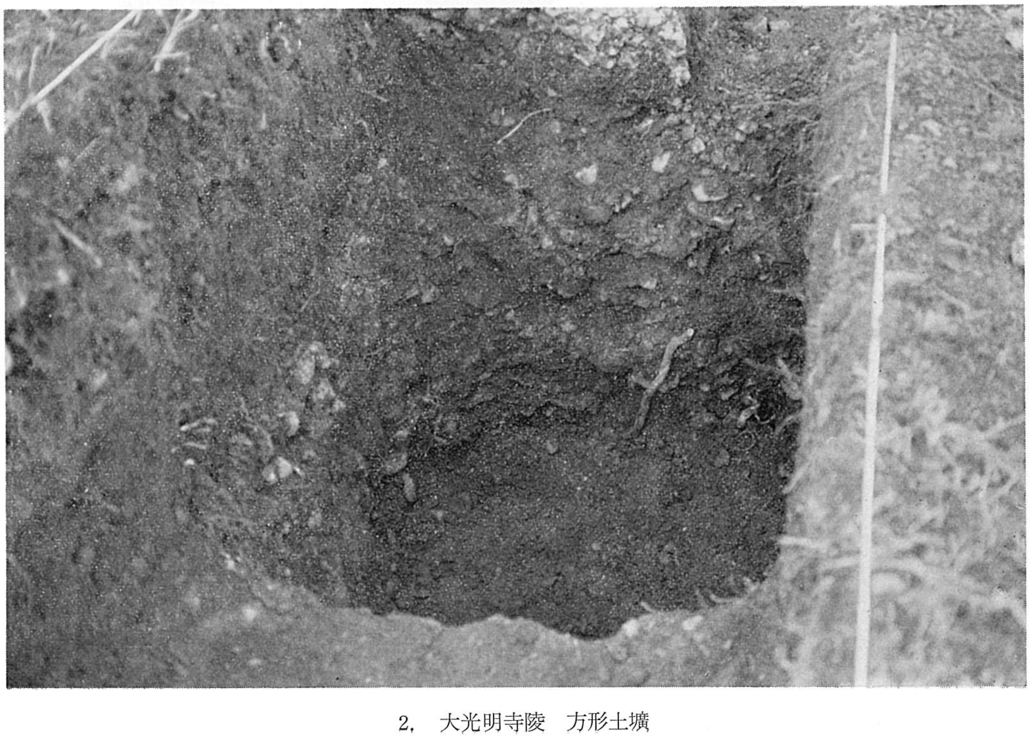
調査は、昭和五十五年一月二十二日から三日間行なった。撤去する土堤に幅二メートル、長さ一・二〜一・八メートルのトレンチ四本を設け



第37図　沓塚陵墓参考地トレンチ位置図（1/400）



1. 鳥戸野陵 トレンチ出土遺物



2. 大光明寺陵 方形土壙